

# あっぱれ! おかやま

岡山倉敷フィリピンサークルは、県内在住のフィリピン出身者らで作るボランティア団体。昨年11月、台風30号がフィリピンを襲った時は、募金活動などで支援した。先月にも、同国南部タクロバン市の小学校を訪れてサンダルやおもちゃを届けたばかりだ。始まりは2001年、倉敷市の教会に通うフィリピンの女性たちの集まりだった。日本で結婚し子育てしているものの、偏見を持って接する人も

おり、子どもたちが学校でいじめられないかと心配していた。毎週教会に集い、子どもたちが安心して遊べる場を作った。母親たちも母国語で話し、リラックスできた。「フィリピンと日本の交流を」「子どもたちが二つの国の血に誇りを持つるように」。そんな目標を掲げ、活動は徐々に多彩に。06年、フィリピンが台風と火山の噴火で被災した際、ぬいぐるみを届けたことを機に、ボランティア活動も

## 岡山倉敷フィリピンサークル



台風の被害を受けたタクロバンの小学校で、支援物資を手渡す大山さん＝大山さん提供

## 台風で被災の母国で支援活動

災害があつたときには一緒に現地に向かうように。AMD Aのスタッフと現地の人々とのつなぎ役として活躍する。時間がたっても継続的に現地

本格化した。メンバーはエネルギーシユだ。打ち合わせは子ども同伴で、料理もたっぷり用意し、楽しみながら。みんな小学校から習った英語が堪能で、会話するうちにタガログ語と英語が行ったり来たりすることもある。代表の大山マージョリーさん(41) O「AMD A」(北区) 09年から災害・紛争地に医療者を派遣するNGO「AMD A」(北区)と協力し、フィリピンで

を訪れるフォローアップも大切にしている。

「おもてなしの国」とも呼ばれ、助け合いの精神が強いフィリピン。大山さんは「もし日本が災害に襲われたら、今度は日本に来る支援団体の受け入れを手伝いたい」と、先を見据えている。

【五十嵐朋子】

岡山倉敷フィリピンサークルメンバーは70人以上。学校の教員など仕事を持ちながら、休日を中心に活動している。7000以上の島からなるフィリピンでは、キリスト教を信仰する人が多い。同国の公用語はタガログ語。